

# 第40回日本毒性学会学術年会 ブース出展および学術発表のご案内

(2013年6月17(月)～19日(水) 幕張メッセ 国際会議場)



ブースはドリンクコーナーがある  
展示会場2で出展しております。  
(ブース番号：80・81)

是非お立ち寄りください！

## 【発表①】

演題：SD及びWistarラットにおける腎障害バイオマーカーとしての尿中L-FABPの評価  
(演題番号: P-32)

演者：鈴木 慶幸

日時：6月17日(月) (ポスター展示) 質疑応答16:00～17:00  
(口演：優秀発表) 13:30～16:00

ラットGentamicin腎障害モデル及び虚血再灌流モデルを用いて、尿中のL-type Fatty Acid Binding Protein(L-FABP)の腎障害バイオマーカー(BM)としての有用性、ラット系統差などを検討した。

その結果、尿中L-FABPは病理組織学的に軽微な腎障害においても、他のBMと比較して、より早期に反応する腎障害BMであることが示唆された。また、尿中L-FABPはSD及びWistarラットを用いた非臨床試験に応用できることが示唆された。

## 【発表②】

演題：イヌにおける1,3-dinitrobenzene単回投与による臓器毒性の病理組織学的検討  
(演題番号: P-126)

演者：江田 景

日時：6月18日(火) (ポスター展示) 質疑応答16:00～17:00

1,3-dinitrobenzene (DNB) をイヌに単回経口投与し、経時的に全身臓器の病理組織学的検査を行い、ラットとの種差についても検討した。その結果、DNBを25mg/kgで投与後1日から肺、肝臓、脾臓及び腎臓に様々な障害が発現し、投与後28日ではさらに遅発性の脳障害が出現することが示唆された。今回の検討ではラットと異なり精巣障害は明らかでなく、また、脳障害部位にも相違がみられた。

★L-FABPの関連発表が19日13:30より下記シンポジウムにて行われます。

シンポジウム「ファーマコビジランス」

演題: 心腎連関疾患における尿中微量アルブミンとL型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)の活用

演者: 聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科 客員教授 菅谷 健先生